

見直しの検討をお願いしたい用語について

支援者側ではなく市民から見て内容が分かりやすい事業名称が望ましいと思い提案します。

名 称	問 題 点	新 名 称 (案)
言語相談訓練	<p>①言語訓練は就学前の約 2 年間にもかかわらず言語相談訓練の対象は 18 歳までと表記され、誤解を与える。訓練が終わると関係が途切れる。</p> <p>②発達障がい概念がなかった時代の「ことばの遅れを訓練で直す」という事業名で、今の時代にそぐわない。言語聴覚士による訓練ではあるが、内容は言語だけではない。市の唯一の公的「療育」として担っている範囲はもっと広い。内容にあった名称に変更したほうがよい。</p>	<p>名称変更を最小限にする場合 「言語訓練」(就学前の 2 年間) 「言語相談」(18 歳まで) に分離する。</p> <p>名称変更する場合 「発達サポート言語プログラム」 (就学前の 2 年間) 「発達サポート運動プログラム」 (新規) 「発達サポート継続相談」 (18 歳まで)</p>
家族への研修	家族は研修されるべき存在なのだろうか。	家族への学習会
親の会支援	協力関係では？立ち上げからサポートした子ども家庭支援センターは特殊な例では？	保護者の交流支援 地域団体（親の会等）との協力

本検討委員会において使われる用語の定義について、共通理解のために確認をお願いします。

用 語	意 味
コーディネート	調整。
連携	互いに連絡をとりあい、一つの目的のために協力して一緒に物事を行うこと
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者（子ども）の特性や支援方法などの子ども情報（カルテ）</li> <li>・地域資源、医療情報、療育の定員や空き情報、待機者数などの情報</li> <li>・福祉サービス（行政）の手続きなどの情報</li> </ul>
相談	児童発達支援センターが行う相談の中身のわかりやすい表記の工夫が必要。言語相談（＝訓練）、一般相談（＝面談）、専門相談（＝アセスメント）、計画相談（＝福祉サービス利用手続き）、その他 心理発達相談（心理士によるインタビュー）、就学相談（就学先決定のためのプロセス）などがある。
療育	<p>本来は「治療教育」</p> <p>広義は「発達支援」</p> <p>狭義は「専門家による発達支援プログラムやトレーニング、レッスン等」</p>